

ら、抽出したすべての造形要素には概ね普遍性及び地域間による差異がないと言える。また既往の建築作品との比較では「群」や「無秩序」といった自然発生的な造形要素を既往の建築作品上で確認する事はできなかったが、他の造形要素は該当数にばらつきはあるものの確認することができた。第2編では、第1編での分析をもとに建築作品を制作した。分析より得られた知見を概ね建築作品に反映させることができた。

氏名 05 GTA-02 梶原正史  
研究題目名 対社会コミュニケーション空間としての住居の玄関に関する研究

指導教授 上和田 茂

鈴木成文によって現代日本の住居の閉鎖化が指摘されてから既に20年余りが経つ。セキュリティへの要求の高まりに示されるように、今日、この傾向はむしろ強まってきている。他方、高齢化、少子化、個人化という家族や社会の変化を前提にすれば、介護や子育て等の問題を介して、住居・住人と近隣社会との結びつきの必要性は高まっており、上記の傾向とは矛盾した状況にある。

本研究はこのような問題意識から、住居の玄関を対社会コミュニケーションの場として活かすための方策を検討したものである。まず玄関の歴史を省み、そこが接客＝対社会コミュニケーションの場として成立しながらも、戦後は単なる出入口と化したことを明らかにした。次に新聞折り込み広告や住宅雑誌掲載プランに基づいて、様々な玄関の工夫を把握し、更に居住者へのアンケートやヒアリング調査によって、玄関利用の実態や評価を分析し、これからの玄関のあり方について考察した。

氏名 05 GTA-03 松島晋也  
研究題目名 アーキグラムのデザイン思想に関する一考察

指導教授 佐藤正彦

アーキグラムは1960年代の6人組の建築家グループである。彼らは建築のプロジェクトと共に雑誌『ARCHI-GRAM』を創刊し、世界に自分達のイメージを発信した。そしてそのデザインプロセスの背後には、カウンター・カルチャーという特質がある。アーキグラムの提案は、建築からグラフィックや立体造形、そして新技術の提案まで広い。だが決して、建築という内的世界で類型化した論理に絡めとられることはなかった。アーキグラムはあらゆる価値を転倒する中で、新しい価値構造やシンクタクスを確立し、サブカルチャーの可能性を示

したグループである。本研究は、アーキグラムの活動の特徴と影響を分析し、アーキグラムの代表作：ウォーキング・シティの3DCG化と映像化を通して、アーキグラムのデザイン思想を整理・考察するものである。結論として、アーキグラムの概念には「都市とは現象であり、建築とは装置である」という理解があることがわかった。